

●前回(2月25日)以降のデータ公開数は約10,400件

前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約10,400件を公開しました。

●雑固体廃棄物焼却設備運用開始。排気中の放射性物質濃度は安定

構内に一時保管している使用済み保護衣等を焼却する雑固体廃棄物焼却設備について、3月3日まで試験運転を実施し性能を確認できたことから、3月18日より運用を開始しました。運用開始後も敷地境界を含め、敷地内のダストモニタの放射性物質濃度に有意な変動は確認されておりません。焼却設備の運用にあたっては、排気中の放射性物質濃度をしっかりモニタリングしていきます。

●排水路の放射性物質濃度の傾向(K排水路出口の港湾内への付替え完了)

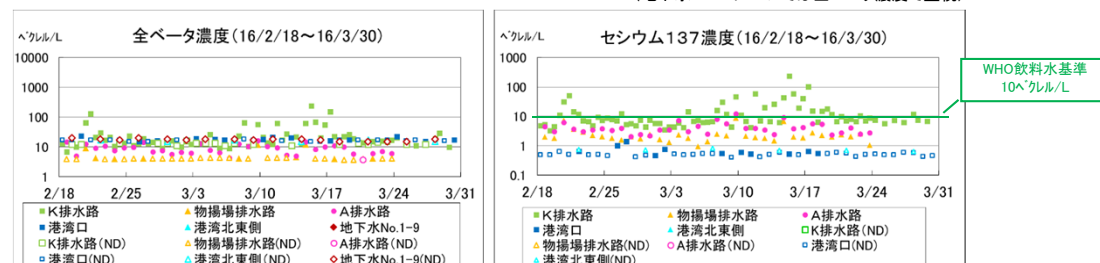
A、K、BC、物揚場の各排水路は、道路、排水路の清掃を実施するとともに、K排水路については、排水を暫定的に港湾内に移送していましたが、排水先の港湾内への付替え工事が3月28日に完了し、排水を開始しました。

各排水路出口付近の放射性物質濃度は低減傾向にあるものの、降雨時には上昇が見られます。今後も更なる濃度低減に向け、調査と対策を継続していきます。

A 水(海水、排水路、地下水等)

- ・K排水路では、降雨時に濃度上昇が見られるものの、昨年のような大きな上昇ではない状況。
- ・セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。

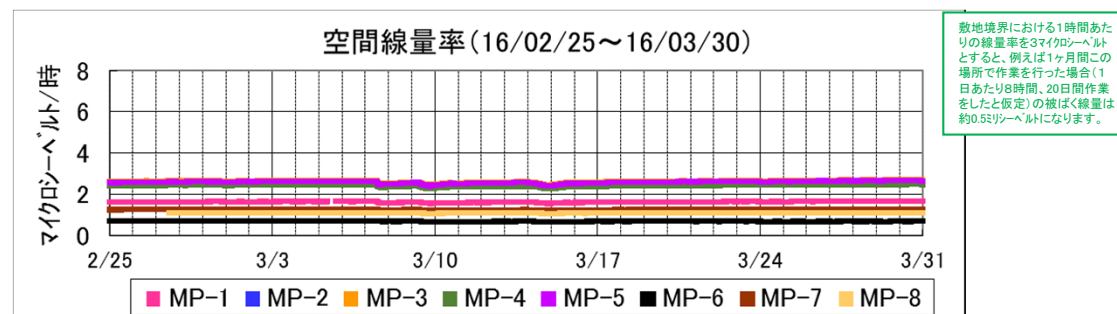
(地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視)



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- 物揚場排水路、A排水路の最新データは2016年3月23日。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

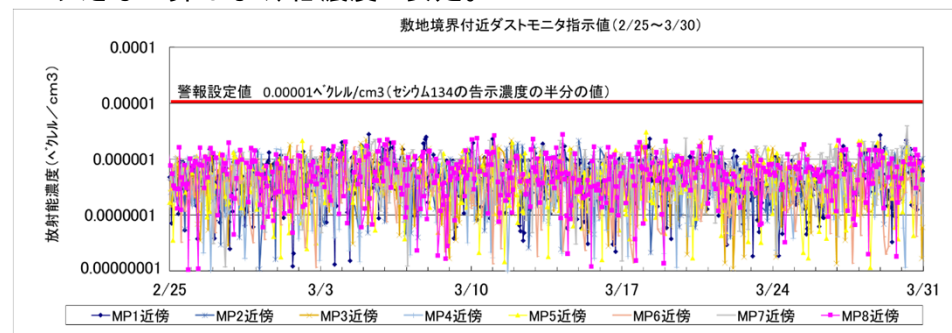
- ・降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



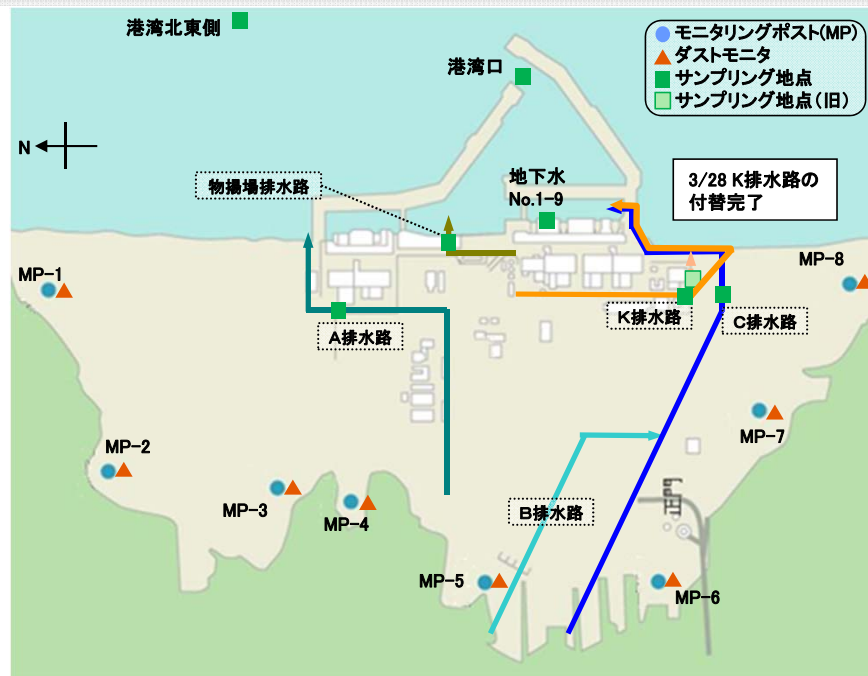
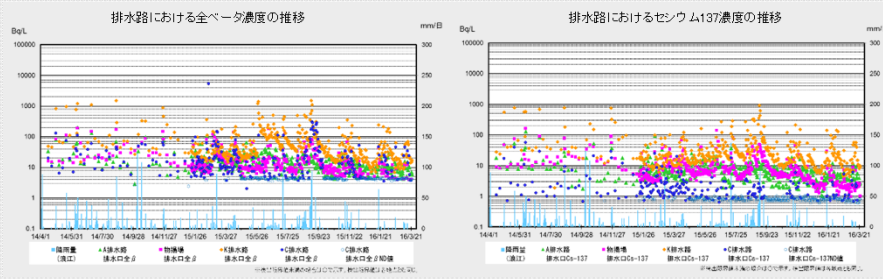
- MP-8: 2/16～2/27リプレース工事のため欠測(代替測定器による監視を実施中)。

C 空気中の放射性物質

- ・大きな上昇はなく、低濃度で安定。



- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

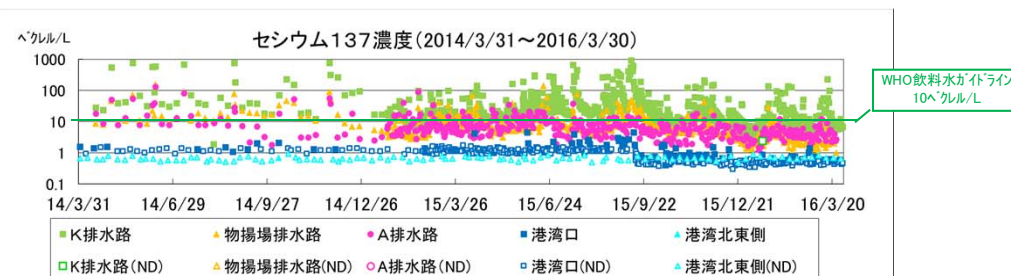
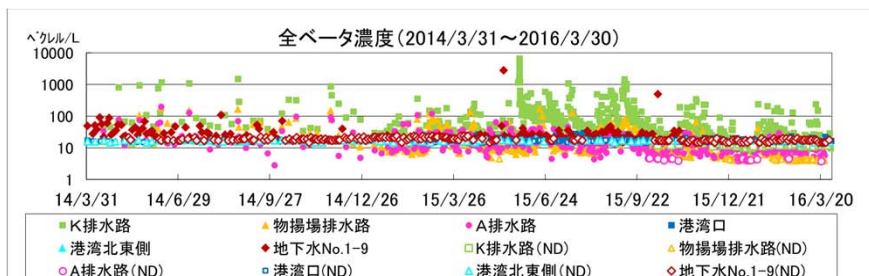


データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)

放射線データの概要 過去の状況

A 水(海水、排水路、地下水等)

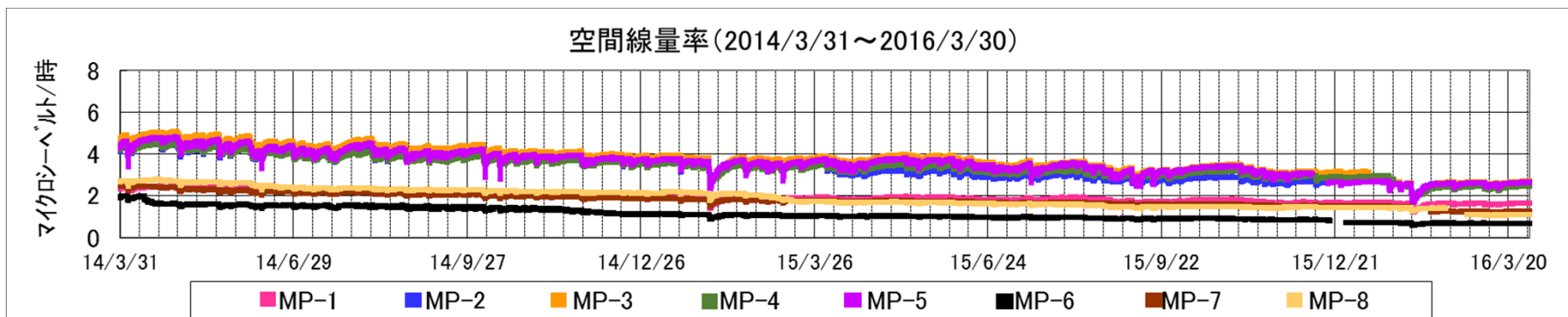
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。また、物揚場排水路、A排水路の最新データは2016年3月23日。

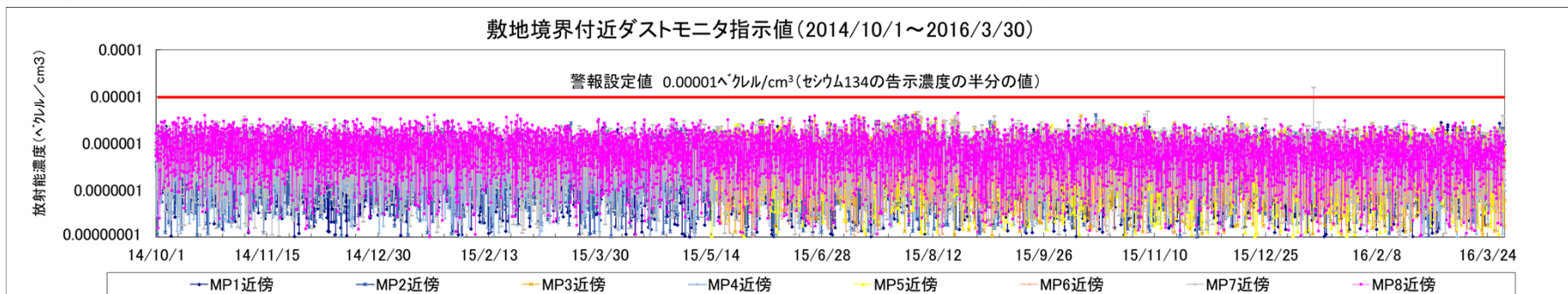
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



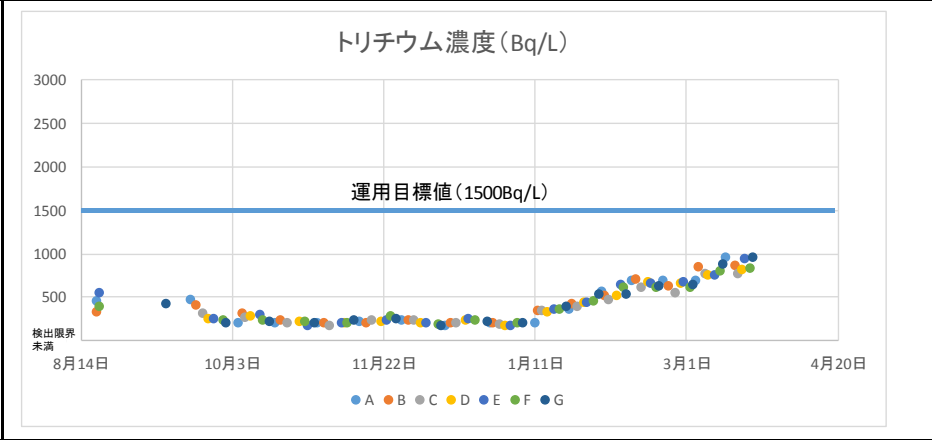
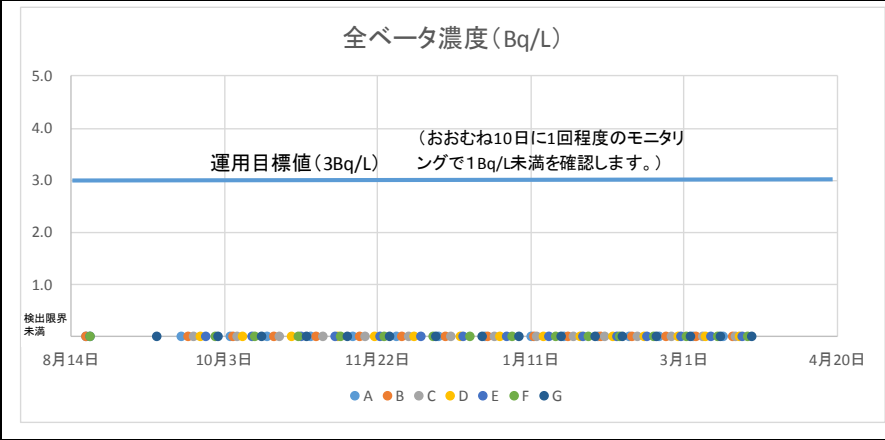
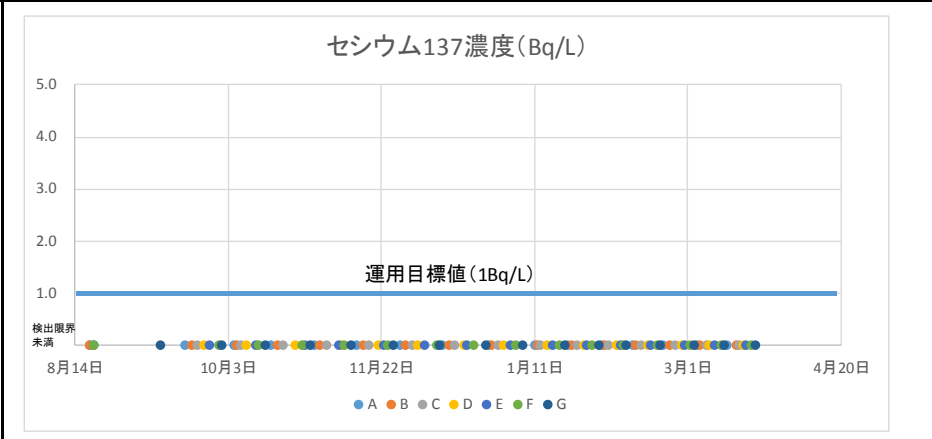
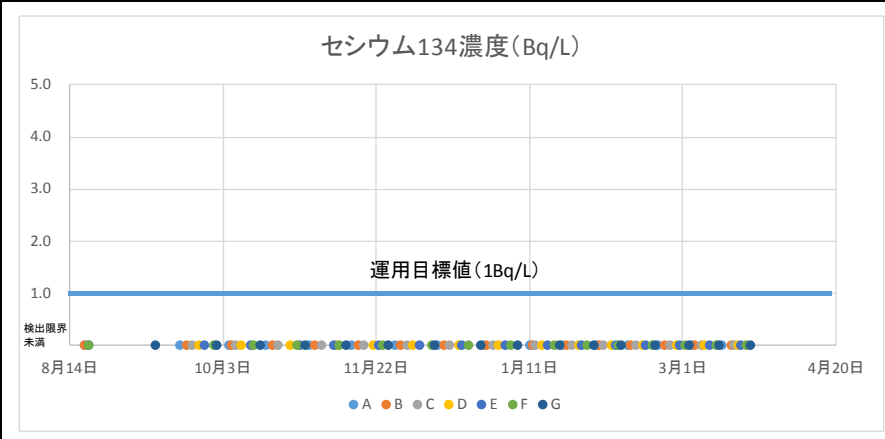
・MP1、2、4、7、8近傍は2014年10月1日、MP3、5、6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、9月14日から3月29日までに合計109回、85,858m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

雑固体廃棄物焼却設備の運用開始に伴う放射線データの公開について

雑固体廃棄物焼却設備での放射線測定

雑固体廃棄物焼却設備は、福島第一原子力発電所で発生した装備品（タイベック・下着類・ゴム手袋等）、工事廃材（ウエス・木・梱包材・紙等）などを焼却するための設備であり、3月18日に運用を開始しました。

雑固体廃棄物焼却設備で廃棄物を焼却した際に発生する排ガスは、フィルタを通して放射性物質を取り除いた後、排気筒から放出します。排ガス中に含まれる放射性物質の量については、連続測定を行い異常を検知した場合は、自動的に焼却炉を停止する仕組みになっています。

この連続測定を行っている排ガス中の放射性物質の量については、準備が整い次第ホームページでリアルタイムで公開していく予定です。

この他、定期的に測定を行っている排ガス中の放射性物質の量や作業環境の放射線の量、焼却灰を詰めたドラム缶の放射線の量などについてもホームページで公開していきます。

ホームページの公開内容

	測定項目	測定・分析頻度
排ガス中の放射性物質	ダストモニタ（ガス中のちりに含まれる放射能）	連続
	ガスモニタ（ガスに含まれる放射能）	連続
	粒子状放射性物質（主要 γ 線放出核種）	1回/週
	ヨウ素	1回/週
	ストロンチウム	1回/四半期
	トリチウム	1回/月
その他の例	作業環境の放射線の量	1回/日
	焼却灰を詰めたドラム缶の放射線の量	発生の都度



雑固体廃棄物焼却設備 建屋全景



制御室

リアルタイムで公開する予定の排ガス中の放射性物質の量以外のデータについては、

<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring2/index-j.html>をご覧ください。